

商品開発事例紹介

総合デザインセンターでは、デザイナーと企業のマッチングやセンターとの共同研究・開発などを通して、富山県内の企業による商品開発を積極的に支援しています。最新の商品開発事例を紹介します。

「木」と「金属」を組み合わせたユニークなぐい呑み

kisen (喜泉) Guinomi Sake Cup

有限会社四津川製作所
富山県高岡市金屋町6-5
TEL.0766-30-8108
<http://www.kisen.jp.net/>

高岡鑄物の発祥の地、金屋町で代々続く銅器メーカー四津川製作所が、2014年に新設したライフスタイルブランド「kisen (喜泉)」。「暮らしに喜びと潤いを」と創業時の屋号に込められた思いをブランドテーマに、第一弾商品として、木と金属を組み合わせたぐい呑み「Guinomi Sake Cup」を発表しました。山中漆器(石川県)の薄挽き技術を用いた木製の軽やかな杯を、ずっしりとした真鍮で支え、金属の重みを安定感として活かした商品。相反する特性を持つ異素材の組み合わせにともなう技術的な困難も、それぞれの精度の高い熟練の職人技で克服し、スタイリッシュでユニークなぐい呑みが完成しました。

異素材を組み合わせた意外性と繊細な造形が評価され、グッドデザイン賞(2014)を受賞。同年、国際消費財見本市「テンデンス」(ドイツ・フランクフルト)の若手作家やデザイナーを特集し紹介す



るエリア「タレント」に招待出展し、2015年に世界最大級の国際消費財見本市「アンビエンテ」(ドイツ・フランクフルト)に出品。ヨーロッパ2カ国のインテリア雑誌で特集記事が組まれるなど、海外からも注目されています。

女性クリエイターたちによる「しけ絹」の新ブランド

JOHANAS (ヨハナス) ストール

株式会社松井機業
富山県南砺市城端3393
TEL.0763-62-1230
<http://www.shikesilk.com/>

富山県南砺市城端に伝わる「しけ絹」。通常の生糸が一頭の蚕の繭からつくられるのに対し、二頭の蚕からつくられる生糸(玉糸)は、二頭の蚕の生糸が複雑に絡み合うことで太さが不均一となり人工ではつくれない微妙な節が現れます。「しけ絹」はこの玉糸をよこ糸に、節のない生糸をたて糸に使用して織り上げたもの。絹の光沢と独特なムラのある表情をあわせ持った希少な絹素材「しけ絹」の新たな楽しみ方を提案するために生まれたブランドが「JOHANAS (ヨハナス)」です。城端で絹織物業を営む松井機業の6代目とデザイナー、建築家、コンセプトプランナー、富山県総合デザインセンター研究員の女性クリエイター5人によって2014年に立ち上げました。蚕の愛の結晶としてできた玉糸はまるで結婚する2人を象徴する



かのように。織りなす生地に現れるのは世界にまたとない唯一無二の美。祝儀袋やハレの日に使えるストール等を提案しています。

日本酒を引き立てる祝いの酒器

MASU

お問合せ:
デザインウエーブ開催委員会(富山県総合デザインセンター内)
富山県高岡市オフィスパーク5番地 TEL.0766-62-0510
<http://www.toyamadesign.jp/>

ガラスの透明感と内側でカーブを描く形状が器に注いだ液体を柔らかく包み、日本酒自体が持つ清廉さを引き立てる酒器「MASU」は、デザインウエーブ開催委員会主催の「富山プロダクトデザインコンペティション2013」の「とやまデザイン賞」受賞作品を商品化したものです。古来より神聖なものとして、社寺の行事やお祝いの席での杯に使用されてきた一合升は、体積を計る測定器や酒器として日本人の暮らしに欠かせない道具の一つ。この日本固有の器「升」を、世界で祝いの場を彩る酒器へと発展させました。

酒器として片手でも持ちやすいよう器を軽量化し、1/3合(60ml)が入るサイズに。底面に色を加える加工を施すことで器の輪郭を際立たせています。底面加工には金箔や漆など、日本の伝



統的な手法を取り込むことを現在、計画中。500個限定で2015年4月以降の販売を予定しています。

デザイン:中村洋介 製造協力:木本硝子(株)